

釧路市立東雲小学校

(開校 平成十七年四月一日)

釧路市では、少子化の影響から学校統合の波が押し寄せ、平成十六年度から小中学校十三校を六校に統合することとなった。

釧路市立東雲小学校は、桂恋小学校と白樺台小学校が平成十七年四月一日統合し、白樺台小学校の校舎を新たな学び舎として、歴史の第一歩を踏み出したのである。

初代校長 高橋優夫先生、開校時九学級、児童数二一〇名である。

校名の由来

釧路の東「日いずるところ」に位置し、未来につながる新たな始まりを踏み出す。

教育目標

- ◎ゆめいっぱいすすんでいく東雲の子
○ やさしい子 ○ ちえある子 ○ げんきな子

校章と校章の意図

校章は平成十六年七月二十一日制定

製作者 山崎 忍氏

〈校章について〉

円は昇る太陽。下部に太平洋の波と砂浜。躍動する波は「元氣」を、砂浜は確固として揺るぎない「信念」の意を。校名の左に別名シノノメ草とも呼ばれるアサガオの花で「愛情・優しさ」を、葉は育まれる「知恵」を表現しています。

白いカモメには「けがれない、真実を追究する心」、カモメ二羽お

よび吹き上がる波頭二つは統合前の桂恋小と白樺台小の子ども。多くのオブジェクトで、夢や希望をたくさん持ってほしいとの親の願い、多種多様な存在を意識し、自己をしっかり見つけ、他者を尊重する気持ちを持ってほしいという社会の願いを込めました。

校歌の制定と作者の意図

校歌は、平成十六年九月一日付で制定された。斉藤 彩美作詞、ヒートボイス作曲による。斉藤彩美氏は「校歌にたくして」と題して作詞者としての意図を書いている。

東雲とは和語であり千年の時を超えて残る日本文化の中に生み出された言葉である。もともと「あけがた」という意味があり「日の出るところ」をイメージすることができる。日の出は一日の始まりであり、新たなことの始まりである。釧路市の最も東に位置し、まさに「日の出るところ」にある二つの小学校が統合して日々新しく元氣の漲る東雲小学校が誕生する。私たちの大切な財産であり、これから未来を築いていく子どもたちに豊かな知恵と勇氣、自信を身につけ大きく羽ばたいてほしい。教職員、保護者、地域がしっかりと重なり合い開かれた学校で夢いっぱい進んでいく東雲の子を育んでほしいとの願いを込めた。

(一番) 東雲という校名から曲の始めに「あけぼの」を使い、そこにいる子どもたちを「華」にたとえた。桂恋の長い歴史を支えた海のように大きく、たくましく生きていくために子どもたちは心と体を鍛え、未来に輝く力を身につけてほしいとの願いを込めた。

(二番) 多くの自然に囲まれ、澄んだ空に暖かく包まれながら、思いやり豊かで溢れる優しさをもつてのびのびと成長してほしい。自分をさがし、両手を広げたくさんの夢と希望をつかみ新しい時代を生き抜いていく人になってほしいとの願いを込めた。

参考資料 平成十七年度 学校要覧、学校保存文書

東雲小学校 校歌

高藤 彩美 作詞
ヒートボイス 作曲

あけ ぼ の に は な う み が き こ え ー る こ
の ひ ろ の か さ な る こ こ ろ で
そ だ て て ゆ こ う た く ま し く い き る
み な ぎ る ち か ら き た え あ げ て く
ほ く た ち は か が や き つ づ け る し
の の め の こ ー

東雲小学校校歌

一 あげぼのに 華

海がきこえる この広野
かさなる心で 育ててゆこう
たくましく生きる みなぎる力
鍛えあげてく ぼくたちは
輝きつづける 東雲の子

二 やわらかい 空

鳥がささやく この陸で
つばさを広げて すすんでゆこう
あかるい笑顔 ふくらむ優しさ
希望あふれる わたしたちは
ゆめいっぱい の 東雲の子